

持続的成長へ向けた、 これまで以上の挑戦

JR東日本グループでは、「グループ経営ビジョン2020 -挑む-」を着実に遂行し、経営の最重要課題である「安全」と、お客さま満足の追求を通じて、お客さまに「安全の先にある安心」を感じていただける企業グループをめざすとともに、事業を通じてあらゆるステークホルダーの皆さまのご期待に応える経営を引き続き進めてまいります。

持続的成長へ向けて

2010年度は、「グループ経営ビジョン2020 -挑む-」を策定してから3年目にあたります。当社を取り巻く経営環境は、一昨年からの急激な景気後退の影響が続き、依然として不透明な状況にあるほか、高速道路料金の引下げや上野・日暮里～成田空港アクセスの新規開業等による交通市場の競争激化など、今後も厳しい状況が継続することが見込まれます。

しかし、逆風をむしろチャンスととらえ、安全の確保とお客さま満足の向上を大前提に、グループ一体となって収入の確保と抜本的な経費構造の見直しに挑戦してまいります。また、10年後のあるべき姿の実現をめざし、将来実を結ぶ施策の推進に着実に取り組んでまいります。



究極の安全をめざして

JR東日本では、会社発足以来、一貫して「安全」を経営の最重要課題として取り組んできました。そして現在は、「グループ経営ビジョン2020 -挑む-」のもと、「ゆるがぬ決意」として、「究極の安全」をめざして取り組んでいるところです。2009年度から第5次安全5ヵ年計画「安全ビジョン2013」に取り組んでいますが、2009年度から2013年度までの5年間で、約7,500億円の安全投資を計画しています。安全設備の整備等を推し進め、安全性をさらに高めていくことで、その先にある「安心」をお客さまに感じていただくことをめざします。

また安全性を高める上では、社員一人ひとりが自ら問題点を見出し、課題を設定してその解決に挑む、すなわち「自ら考え自ら行動する」ことと、「現地」に出向いて状況を知り、実際に「現物」を見て状態を知り、実際に関係している人々と向き合っただけで状況を知る「現人」、すなわち「三現主義」が重要だと考えています。JR東日本グループは、真のプロフェッショナルの集団として、「三現主義」を行動基準とし、「自ら考え自ら行動する」ことで、「究極の安全」をめざし、お客さまに「安心」してご利用いただけるよう、引き続き取り組みを進めてまいります。

「日本発の鉄道技術」を海外へ

地球温暖化が世界的な問題となる中で、単位輸送量あたりのCO₂排出量が少ない交通機関として、鉄道が世界的に注目されています。

当社は、国鉄時代を含めた一世紀以上の間、内部に多くの専門技術者を擁し、鉄道の建設、運営にかかわる技術力をはじめ、鉄道事業のマネジメントノウハウなどを蓄積してきました。それをトータル・コーディネートして、安全かつ安定した輸送を提供できるのが当社の武器です。

これまで当社は、鉄道事業を中心として、生活サービス事業、Suica事業を国内で展開してきましたが、当社の持つ技術が海外で活用されることにより、地球環境問題に貢献できるのであれば、非常に意義あることだと考えています。

新しいビジネスを創り出すということは、まさに「挑戦」です。海外でのビジネスという意味では経験の浅い当社にとって、この新しいビジネスを定着させるまでには、乗り越えなければならない多くの課題があるとは思いますが、「日本発の鉄道技術」を海外へ広げ、世界の鉄道の発展に寄与すべく、積極的に取り組みを進めてまいります。

地球環境問題への使命と挑戦

「グループ経営ビジョン2020 -挑む-」において、JR東日本グループは、地球環境問題に積極的かつ長期的に取り組むこととし、「鉄道事業のCO₂総排出量を、2030年度までに50%削減(1990年度比)する」という高い目標を経営ビジョンの中で掲げました。この思いは、JR東日本グループが地球の一員である以上、地球環境問題への取り組みは、当然の使命であると考えているためです。公共性が高く、環境負荷の小さい鉄道を主力事業とするJR東日本グループの果たすべき役割は大きいはずですが、だからこそ高い目標を設定して、果敢に挑戦していきたいと考えています。

鉄道は、人ひとりを運ぶときのCO₂排出量で比較すると、他の交通機関に比べ環境負荷の小さい交通機関であることは言うまでもありません。しかし、当社は、東日本エリアに約7,500キロの鉄道ネットワークを持っています。そのため鉄道の環境負荷が低いとはいえ、当社は1日あたりの輸送人員が世界最大の鉄道会社であり、相当のCO₂を排出していることを認識する必要があります。

経営ビジョン策定後、着実に環境問題に取り組んでまいりましたが、国内での温暖化対策の進展や生物多様性の問題など、今後も環境問題の重要性は高まる方向にあります。そこで2010年7月、JR東日本グループの環境経営を一層推し進めるため、経営企画部内に「環境経営推進室」を設置しました。鉄道の環境優位性にあぐらをかかずに高い環境目標を掲げ、環境問題に積極的かつ長期的に取り組んでまいります。

東北新幹線全線開業と地域活性化

2010年12月4日に八戸～新青森間が開業し、東北新幹線全線開業となります。これは青森県だけでなく東北エリア全体としても大変画期的なことだと思います。東北新幹線は、1982年に大宮～盛岡間で運行を開始し、その後上野～大宮間、東京～上野間が順次開業、2002年には八戸まで延伸しましたが、今回新青森まで延伸することで、東京～青森エリアへのアクセスの速達性、利便性が大きく向上し、首都圏から青森エリアがさらに身近な存在になるばかりでなく、地域と地域の交流の活性化にもつながるものと考えています。

JR東日本グループでは、今回の開業に合わせ、観光資源や地産商品の掘り起こしなど、「地域再発見プロジェクト」の展開を推進し、地域活性化につなげてまいります。

最後に、鉄道は多くの方々の移動や生活を支える公共交通機関です。安全性や利便性のさらなる向上に努め、その役割を将来にわたり、実直に果たし続けていくことが、当社の使命です。

東日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長

清野 智